

第1回 研究所若手アンサンブル講演会
第11回学際科学フロンティア研究所セミナー

文理不分離の 分野横断

講師: 中野 不二男 (京都大学特任教授)

日本書記をはじめとする古文書には、超新星や地殻変動など自然現象にかんする情報がたくさん含まれています。いっぽう地球観測衛星によって取得されたデータを利用すると、地図や航空写真では見えない特異な地形に首を傾げることがあります。衛星観測という宇宙技術と、古地図や古文書などから抽出する人文科学の情報を融合したら、もっと新しい世界がひろがるでしょう。

個々の分野の研究が発展してゆくと、やがて異分野と交わるのは必然のほうです。それにより新しい領域が生まれるし、また新しいフェイズに入るためには、そうあらねばならないでしょう。

宇宙開発が、科学や技術だけの世界でないことは、誰の目にも明らかです。有人宇宙輸送をめざすとなれば、倫理学から国際政治、ジャーナリズム論など幅広い領域が絡んできます。これからの研究は、そうした学際的な視野が必要になると考えています。

[2015]

9月30日 (wed.)

13:30 - 14:45 <14:45 - 15:30 意見交換会>

会場: 東北大学金属材料研究所 国際教育研究棟 2階セミナー室

同日、「アンサンブルグラント説明会」(15:40-16:30)を行います。

中野 不二男 (京都大学特任教授) 略歴

1950年、新潟市生まれ。日本大学農獣医学部中退後、ウィーンの通信社を経て'78年に渡豪。先住民アボリジニーの調査研究および執筆活動を始める。帰国後、'84年に『カウラの突撃ラップ』(文藝春秋)で第11回日本ノンフィクション賞を、'90年には『レーザー・メス 神の指先』(新潮社)で第21回大宅壮一ノンフィクション賞を受賞。宇宙開発委員会専門委員などを歴任。東京大学にて、博士(工学)を取得。近年は、宇宙航空研究開発機構主幹研究員を経て、2012年より現職。著書に、『メモの技術』、『デスクトップの技術』、『ニュースの裏には「科学」がいっぱい』、『科学の時間』、『日本の宇宙開発』、『ロケット開発「失敗」の条件』、『湯川秀樹の世界 中間子論はなぜ生まれたか』など多数。

現在は、京都大学宇宙総合学ユニット、一般財団法人リモートセンシング技術センター (RESTEC)、東京学芸大学附属高校スーパーサイエンス・ハイスクールなどで、衛星工学から防災、防衛、国際関係論、宇宙政策に関わる「宇宙人文学」を展開している。

聴講自由